

<北の便りー1, 475ー>2018. 1. 5版

3360地区チェンライ RC パスト会長便り

この美談こそ「奉仕は3方良し」 チェンライから1時間半、ミャンマー国境に近い。そこにアカ族子供寮「センスック」がある。この寮を支援して4年になる。7歳から15歳の子供56人が食料を自給自足し、共同生活を送る。苗床作り、田植え、草むしり、稲刈り、脱穀と年間に子供たちが費やす農作業時間は多い。その疲れを別にしても学習時間が大きく制限される。私が支援する「識字向上」に足かせた。1年半前子供達と管理人のニッドさんが私に「せめて耕運機だけでも支援して欲しい」と相談があった。子供達は「浮いた時間で勉強します」と祈るようだった。その支援も立派な「識字支援」だと心に刻んだ。その後私は長野県・南安曇農業高校インターアクト30周年の記念講演でそれを語った。提唱親クラブ・あずみ野ロータリークラブさんは私の話を聞き逃さなかった。ほどなく支援を頂き、昨年の春の田植えに間に合った。年末私の帰国を前に寮生たちが「このお米は耕運機支援を受けて出来た新米です。あずみ野クラブさんに届けて下さい」と届けられた。私は自らする「行動でする奉仕」に「奉仕は3方良し」の造語を当てる。「この美談こそ」と、私まで嬉しくなった。

